

「秋田大学みらい創造基金学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日：2021年2月3日

所属：理工学研究科共同ライフサイクルデザイン工学専攻2年

氏名：本田萌

派遣先大学名 ラップランド応用科学大学（フィンランド）

在籍身分：交換留学生

派遣期間：2020年1月～3月

渡航年月日：2020年1月14日

帰国年月日：2020年3月19日

○派遣先大学における授業等の履修状況

○Business Information and Data Analysis

1月から2月にかけてほぼ毎日ありました

○NY Entrepreneurship

1月から6月にかけて毎週他の講義と被っていたため、オンライン授業を後で聴講し、プレゼン等を行いました

○Enabling Digital Transformation

2月中旬から5月にかけて Business Information and Data Analysis と同じ時間帯にありました

○Survival Finnish

不定期に夕方4時以降に2時間ほどオンライン講義がありました

4月頃の履修状況

(3月下旬以降は日本で履修しており、日本時間15時から22時頃の履修でした)

	月	火	水	木	金
9:00-12:00	Enabling Digital Transformation	Enabling Digital Transformation NY Entrepreneurship	Enabling Digital Transformation	Enabling Digital Transformation NY Entrepreneurship	Enabling Digital Transformation
12:15-16:00	Enabling Digital Transformation	Enabling Digital Transformation	Enabling Digital Transformation	Enabling Digital Transformation	

○研究・学習概要及び今後の勉学計画

フィンランドでの循環型社会の中で起業に関する授業を受けることができたことは、大変貴重な体験となりました。特に、今までにないビジネスを生み出すための順序や考え方などを学ぶ講義においては、実際に地元企業の方の課題解決をしつつ、新しいビジネスを生み出すことを経験することができました。授業のほとんどがプレゼン発表で構成されている点がとても魅力的でした。毎日意見が飛び交い、常に手を動かしながら考え、発表も

行う中で、英語で発表することへの抵抗感はなくなり、質疑応答が楽しく感じられるようになりました。留学先での学びは短期間となってしまいましたが、その一方でその際に学んだ手法やツール、循環型社会を踏まえた考え方など、現地で知ったこと、学んだこと、考えさせられたことを就職後にも活かしていきたいと考えております。

○生活面について

現地の学生との交流に関してですが、私のコースは特殊で、私が在籍していた際にはフィンランド人の学生が1人もいませんでしたが、学生間での交流は頻繁に行っていました。例えば、各国の料理を毎週作ったり、他のキャンパスの学生と大人数で雪の中、BBQをしたり、コロナウイルスの問題が各国で出てきた頃だったので、各国の対応や感染状況に対する感想を言いあっていたりもしました。寮では3人用の部屋に1人で住んでいました。残りの2部屋は空いており、たまに遠方から訪れたフィンランド人や地元のスポーツクラブの子どもたちが急に2・3日泊りに来ることがありました。その際、話す時の言語が基本、英語ではなくフィンランド語で、全くできなかったことから、フィンランド語を現地で学びはじめ、今もなお学習を続けています。食生活に関しては、毎日自炊をしていました。基本的にフルーツが安かったことから、1キロ130円くらいのりんごを定期的に購入して栄養バランスには気をつけていました。習慣の違いやマナーに関しては、日本とそんなに変わるものではなく、玄関で靴を脱ぐところに関してはとても日本らしいと思いました。びっくりした点は、16時には学校から人がいなくなる点でした。16時になると図書館等に残って学習する学生は見当たらず、先生方も16時には帰る方が殆どでした。オンオフがしっかりしていて、家族を大切にしているフィンランド人の生活は素敵だと感じました。

○その他留学全般にわたる感想

私は2020年にフィンランドに渡航し、無事帰国することもできました。それが一番よかったことだと思います。また、当初予定していた4か月半ではなく2ヶ月での帰国となったことにより、この留学を通して何にも代えられない悔しさを経験するとともに、自分を貫くこと、どんな状況にも対応する力の大切さを学びました。この悔しすぎたことをばねに、就活や論文、継続した語学学習等に力を入れることができたと思っています。あまり良いことではありませんが、コロナウイルスがあったからこそ、突然帰国を余儀なくされた留学生同士の絆はさらに深まりました。2020年に留学ができたこと、コロナという関心のある共通の話題があって、意見もあって、たくさん話し合うことができたことはすべて素敵な経験だったと考えています。

私は4月からは社会人となります。留学で経験した悔しさとはまた別の悔しさをたくさん経験していくと思いますが、その時、その時の悔しさをばねに、職場で意見交換を活発に行い素敵なモノづくり、コトづくりをしていきたいです。



KemiにてKemiにいる交換留学生と

(様式2)



Kemi と Tornio の交換留学生と



Tornio の交換留学生とチューターと(フィンランド最

終日)

○渡航費補助について

留学に行くことと決めた当初、バイト代からすべて捻出することを考えていた私にとって、渡航費の補助は大きな支援でした。新型コロナウイルスにより悔しいことがたくさんある中でも、留学という素晴らしい経験を与えてくださり、様々なことを乗り越える力をいただき、本当にありがとうございました。社会人になってからもこの経験を活かし、素敵なモノづくり、コトづくりをしていきたいと考えております。ありがとうございました。